

社会を明るくする運動

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」。市内の小中高校生を対象に犯罪や非行のない地域社会づくりをテーマに作文を募集しました。広報きくち9月～11月で各部門の最優秀作文を紹介します。

中学生の部 最優秀作文

明るい社会への第一歩

泗水中学校3年 吉岡 滯那さん



新聞やニュースでは殺人事件などの暗いニュースが絶えません。最近、特に驚いたのは今年の3月に熊本市の繁華街で起きた傷害事件でした。熊本市の繁華街は買い物に行くこともあり、身近な場所で傷害事件が起きたことが信じられませんでした。

この事件はある店の店長が、3人の従業員を包丁で刺したという事件です。従業員が「辞めたい」と言ってきたことに対して、店長が仕事のストレス、怒りを爆発させたということでした。新聞やニュースの情報のみなので、この店長と従業員の間に何があったのか本当のところは分かりません。

私なりに考えたことは、この店長と従業員が日頃からコミュニケーションがとれていれば起きなかった事件なのではないかということです。また、店長はお店の中で困っている孤立していた人だったのではないかとも思いました。

社会の中には孤立している人や困っている人など、さまざまな思いを抱えて生きている人がいます。周囲が気づき声を掛けたり、相談に乗ってあげたりして、孤立、孤独な人をなくしていくにはどうしたらよいのだろう。

また、そのためのコミュニティを作っていくにはどうしたらよいのだろうと考えました。大きなことはできないので、まず自分の学校でできることを考えてみました。

泗水中学校では挨拶運動を実施しています。この運動は生徒会執行部が、学校の正門と昇降口に分かれて毎朝、挨拶を行う運動です。私は執行部の一員として、今年から挨拶運動をする側になりました。

この運動を通して改めて挨拶の良さに気づくことができました。朝から挨拶をして、顔を合わせ、声を掛け合うことで自分や相手の存在を認めるということになりました。挨拶運動はたくさんの人とコミュニケーションをとることができる素晴らしい取り組みだと実感しています。

この他にも、部活動や地域行事に積極的に参加することで、より多くの人たちと関わりを作ることができます。私も部活動に入ったことで、「なかま」が増えていきました。そして、つながりを深めていくことで地域社会の一員として、活動できる場も増えていきます。

地域のつながりを一番感じたの

は、熊本地震の時です。近所の人々が心配して家まで訪ねてきてくださり、とてもありがたい経験をしました。地域のコミュニティの大切さを実感しました。

私は学校や地域でたくさんの人々と良いコミュニケーションがとれていれば、孤立する人たちが少なくなり、犯罪や非行も減っていくと思います。小さなことですが、挨拶運動や部活動、地域行事への積極的な参加など、継続して取り組んでいくことが明るい社会を作っていく第一歩だと、この事件を通して改めて考えることができました。

明るい社会を目指して、これから私にできることは、周りの人たちと笑顔で挨拶を交わしたり、常に感謝の気持ちを持って人と接したりするなど、何気ない日常の中にあると思います。

家族や友人、地域の方々と毎日楽しく交流が図れていれば、困っている人や悩んでいる人がいても、お互いに自然と手を差し伸べることができると 생각합니다。普通の生活において、他人を思いやる気持ち、感謝の気持ちを持って、一日一日を大切に過ごしていきたいです。

子ども議会

市では、中学生が模擬議会の体験を通して、市議会や行政の仕組みを理解する「子ども議会」を毎年開催しています。

【問い合わせ先】生涯学習課 ☎0968(25)7232



今年も中学生らしい独創的な質問やアイデアが次々と議場に響き、実際の市議会さながらの光景が広がりました

子ども議会とは、市内5中学校から4人ずつと議長役1人の計21人の中学生が市議会の議場で、市の施策やまちづくりについて疑問に思ったことや子ども目線でのアイデアを提案し、市執行部が答弁する模擬議会のことです。

今年は8月1日に開催し、各中学校から2問ずつ、合計10の質問がありました。市へ移住してきた人と元々住んでいる人との交流を深めることや地域の活性化につながる取り組み、暮らしやすさに関する提案などの質問がありました。市執行部は、質問に対して現在取り組んでいる事業や課題などを説明し、皆さんと一緒に考えていきたいと答弁しました。

子ども議員からは、「伝えたい思いを議会の場で堂々と伝えることができ、大きな達成感を得ることができた」「知らなかったことや新しい気付きや提案を聞けて勉強になった」「他校の意見を聞き、私たちが菊池市を活性化させていくんだと実感した」「これから自分たちも地域の中の一人」という意識を持って生活していこうと思ったなどの感想が寄せられました。

子ども議員が模擬の議会を体験

市議会の未来へつなぐ、子ども議会

これまで、子ども議員の提案から市の施策として実現したものもあります。斬新なアイデアが市の施策として推進されることで、将来の子どもたちが暮らしやすい市に進化していくという好循環が生まれています。

子ども議員にとっては、議場に入場できたことや市役所の仕事を知ることができ、貴重な体験と政治、社会への関心が高まりました。これからの学校生活と地域への貢献の励みになることを期待します。

今回を含め、これまでの子ども議会の様子を見ることができます。二次元コードからご覧ください。

緊張したけど、貴重な経験になりました！

議長を務めた
井上 偉月さん
(旭志中学校3年)

とても緊張しましたが、堂々と発表する子ども議員の姿を見て、緊張が解け、落ち着いて進行することができた経験をこれからも生かしていきたいです。

